

## 答 申 の 概 要

図書館協議会は、平成 19 年 9 月 14 日に中央図書館長から、「図書館サービスのあり方」についての諮問を受け、「評価・検証小委員会」、「運営のあり方小委員会」を設けて、協議を進めてきた。この答申が、これからの札幌市の図書館のあり方の検討に活かされ、市民にとってよりよい図書館づくりの一助となれば幸いである。

- 1 「現行図書館サービスに対する評価・検証」について
  - ・図書館ビジョンで上げられた 16 の短期、中・長期的施策の現状についての評価を行った結果、短期的な施策については、ほとんどが実施に移され着実な成果が見られた。
  - ・中・長期的な施策については、環境及び利用者ニーズの変化などにより不断に見直す必要があるが着実に歩を進めているという認識を持った。
  
- 2 「図書館サービス拡充に向けた図書館運営のあり方」について
  - ・図書館運営の手法のひとつとしての指定管理者制度についての検討を行ったが、この問題には、幅広いオープンな市民議論が必要であり、拙速な対応は避けるべきであると考えます。
  - ・図書館のカウンター業務などの委託については、現状では難しい面があると考えられるが、今後、さらにそれぞれの業務を精査し、効率的な業務分担や運営方法について、検討を進める必要がある。
  
- 3 「子どもの読書活動をはじめとする今後の図書館サービス」について  
新たな課題として、
  - 施設、設備の更新、今後提供すべきサービスに対応した改修
  - 人口分布、年齢構成の変化によるサービスや施設のあり方の検討
  - サービスポイントに関する考え方の変化に対する対応
  - 利用機会の拡大による量的整備と図書館の提供するサービスの質的向上
  - ICT 社会のニーズに対応した図書館サービスの充実への方策について、検討する必要がある。

今後、充実が更に望まれるものとしては、  
電子情報を含む多様な資料収集  
少子化の進行の中での幼少期から読書に親しむ環境整備、地域、学校等との連携による普及活動。中高生への対応  
高齢者、障がい者に対するサービスの他部局との連携  
ネットワークを介した図書館サービス  
「都心にふさわしい図書館」の実現  
地域の利用者特性に対応したサービス  
小・中・高等学校図書館及び大学図書館との連携等

がある。

これらの課題についての取り組みには第二期図書館ビジョンの策定を通じて明確に示していくべきであるとする。

札幌市の図書館が、地域のまちづくりや市民の自立的な判断を支える情報拠点として、より一層充実発展し、市民が誇り得る図書館となるために、「図書館とは何か」という命題を常に考え、真摯に応えていく姿勢を持ち続けることを心から期待したい。